

がん検診の大切さを語る鳥越さん



**「がん検診 受診して！」**  
11月15日 大腸がん撲滅市民フォーラムin敦賀

大腸がんに対する正しい知識と、検診の大切さを知ってもらおうと、あいあいプラザで「大腸がん撲滅市民フォーラム in 敦賀」が開催されました。市民ら約300人の参加者に、がんの原因や最新の治療法などを紹介したほか、自らも大腸がんになったジャーナリストの鳥越俊太郎氏が講演。闘病生活を振り返りながら、「一度がんになったら死ぬまでの付き合い。何よりも命が大事。早期発見のために検診に行ってください」と訴えました。

植樹を行うベンシトリット大使（中央）、河瀬市長ら



**感謝をオリーブの木に込め**  
11月14日 イスラエル大使寄贈のオリーブを植樹

イスラエルのニシム・ベンシトリット駐日特命全権大使が「人道の港 敦賀ムゼウム」を訪れ、イスラエルの国木であるオリーブの苗木を寄贈し、植樹を行いました。今回の贈呈は、戦時中のユダヤ人難民受け入れや、その歴史を伝える同館の功績に感謝の気持ちを込めて行われたもの。高さ1メートルほどの苗木を、大使と河瀬市長らがムゼウム前の緑地に植樹し、イスラエルと敦賀の友好の証を喜び合いました。

たくさんのコスモスに囲まれ大喜び



**お花に囲まれ心ウキウキ**  
11月3日 コスモスまつり

原区主催の「コスモスまつり」が、西福寺前のコスモス畑で行われました。このイベントは平成18年に始まり、今年で4回目を迎えます。この日は、肌寒い天気にもかかわらず大勢の方が来場。会場では、恒例のコスモスの摘み取りや農産物販売のほか、区民の方が作ったアツアツの里芋汁や焼き芋の販売も行われ、来場者の心と体を温めていました。また、西福寺宝物殿の一般公開や「菊花大会&ガーデニングフェア」も同時開催され、西福寺周辺はたくさんの花と人で終日賑わいました。

合唱団と管弦楽団による演奏



**歓喜の歌を声高らかに**  
11月29日 第7回つるが第九演奏会

敦賀港開港110周年と、各務原市との友好都市締結20周年を記念し、「つるが海響コンサート 第7回つるが第九演奏会」が市民文化センターで行われました。指揮者の平光保氏とウィーン岐阜管弦楽団を招いて、敦賀では8年ぶりとなった今回の第九演奏会。テノール歌手の吉田浩之氏らを迎え、「各務原シティカレッジ合唱団」と「つるが第九合唱団」の総勢200人を超える大合唱団が、壮大な歌声で観客を魅了しました。

鳥獣害の対策を熱心に説明する井上さん



**みんなで取り組もう**  
11月28日 鳥獣害対策講演会

イノシシやシカなど有害鳥獣による被害が増加する中、被害防止の効果的な取り組みを学ぼうと「鳥獣害対策講演会」があいあいプラザで行われ、農家の方など約90人が参加しました。この日は、鳥獣害対策指導に実績のある近畿中国四国農業研究センターの井上雅央氏が「これならできる獣害対策」と題し講演。井上氏は、集落内の放置果樹などの問題点を上げ、「野生動物に餌付けをしない環境づくりが大切」と話しました。

地元の方に教わりながら わらを束ねる気比中の生徒



**中学生と一緒に準備着々**  
11月14日 西町綱引き 大綱作りの準備作業

来年1月17日の敦賀西町の綱引きを前に、夷子大黒会館前の作業場で、地元の方と中学生らが綱作りの準備作業を行いました。この日は、松陵中と気比中の生徒が参加。生徒らは、地元の方にコツを教わりながら、丈夫なわら30本ほどを束ね、綱の基礎を次々と作りました。綱引き保存会の大道豊会長は「中学生の手伝いは心強い。高齢化で続けていくのは大変だが、このような取組を行うなどして、できる限り継続に向けて頑張りたい」と話しました。

沓見御田植祭の王の舞



**みんなで守っていこな!**  
11月8日 郷土民俗芸能大会

敦賀の伝統行事や民俗芸能が一同に集まる「郷土民俗芸能大会」が、市民文化センターで行われました。この大会は、市文化協会創立50周年を記念した行事で、伝統芸能の保存と継承を目的に10年ぶりに開催。大会では、「沓見御田植祭」や「西町の綱引き」といった伝統行事をはじめ、郷土愛にあふれた和太鼓や盆踊りなどが披露されました。詰め掛け多くの市民らは、郷土色豊かな芸能をたっぷり堪能していました。



あなたが写っていたらご連絡ください。  
写真を差し上げます。  
広報広聴課 ☎ 22-8112